

「輝け11 しまね町村フェスティバル」(第7回)について

H30.05.17 実行委員会事務局

1. 企画概要

- 趣旨 県内11町村の伝統文化・芸能、また豊かな海の幸、山の幸を紹介することにより、これまで培ってきた島根の原風景「まち・むら」の魅力・輝きを情報発信
- 主催 島根県町村会及び島根県町村議会議長会並びにT S K (実行委員会)
 - *共催 島根県 *後援 山陰中央新報社
 - *協力 島根経済同友会・島根県環境保健公社・山陰合同銀行・千里
 - *特別参加 日本赤十字社島根県支部・島根県共同募金会・島根県緑化推進委員会・島根県森林協会・水土里ネット島根・しまね自然と環境財団・しまね国際センター・島根県国民健康保険団体連合会・企業ボランティア松江ネットワーク会議・しまね海洋館アクアス
- 日時 平成29年9月30日(土曜)及び10月1日(日曜)の2日間
- 会場 松江市向島町 T S K山陰中央テレビ新社屋特設会場
- 主な事業内容
 - ・地域の伝統文化、芸能等の紹介
 - ・地域の特産品の紹介、実演、販売促進
 - ・観光、定住促進に向けた情報発信

2. 開催概要

- 1) 来場者数 30,000人 *過去最高
 - ・松江市向島町の会場に回帰して2回目の開催。来場者数は、向島開催のこれまでの最高(H28:26,000人)だけでなく、過去最高の県庁前庭開催H27:29,000人をも上回った。
 - 天候にも恵まれ、くまモンが来場した1日(日)は、一日としての過去最高17,000人の来場を記録した。
 - この要因としては、次の点が挙げられる。
 - ① イベントとしての認知度が向上し、秋の風物詩として定着してきたこと。
 - ・開催時期の固定化
 - ・テレビなどによる効果的な広報
 - ② ゆるキャラ集合などにより、家族連れが年次増加していること。
 - 特に、今年は知名度の高いくまモンの来場により関心が一層高まったこと。
 - ③ 山根万理奈スペシャルライブなどの企画が若い層の来場につながり、効果的だったこと。
 - ・1日目の30日(土曜日)は、朝から快晴に恵まれたものの、思ったほどの出足がなく(その後の情報収集で、この日は市内各所で保育所等の運動会が行われていたなどの事情が判明)、その後も各ブースに恒例の行列ができるほどの人出にはならなかった。天候に恵まれたにしては近年ではやや少ない一日となった。来場者13,000人。

- ・ 2日目の1日（日曜日）は、朝から穏やかな天気恵まれた。昨日から状況が一変し、朝から来場者がつめかけ、その後も来場者が途切れることなく続いた。特に、11時の「ゆるキャラ集合」の前後から、くまモン来場への関心から多くの家族連れで賑わった。また、この頃から会場南側・北側とも、ブース前の通路が来場者の多さに渋滞するなどの現象が見られ、昼過ぎあたりから完売ブースも出始め、15時前には多くのブースで完売した。来場者 17,000 人。

- ・ 大型企画はなかったものの、引き続き実施したゆるキャラ集合がくまモンの来場により多くの家族連れで盛り上がり、また「輝け11公式ソング」などを披露した山根万理奈さんのスペシャルライブにより若者が来場するなど、テレビによる広報効果と相まって、効果的な企画となった。

2) ステージ関係

- ・ メインステージでは、県内各地域の神楽や、本場隠岐の民謡、力強い太鼓、伝統的な踊り、また会場全体を利用した踊りなど、様々な伝統文化などが披露された。
- ・ 特に、神楽関係の演目は、立ち見も含めて多くの観覧者で賑わい、着実に伝統文化への支持が広がっている。
- ・ ミニステージも、くまモン・しまねっこのパフォーマンス、山根万理奈ライブ、共同募金会の赤い羽根開始式などが行われ、多くの来場者で賑わった。

3) 物産ブース関係

- ・ 県内各地域の海の幸、山の幸の出展があり、特に、試食、実演を行うブースが増加傾向にある。また、ここ近年の来場者数の伸びを背景に、提供数量を増やすブースも多く見られた。
- ・ 来場者の多寡に物産関係の売り上げは大きく影響されるが、特に2日目の1日（日曜日）は過去最高の人出となり、多くのブースで売り上げが大きく伸びた。その結果、昼過ぎ頃から完売するブースが続出し、これまでになく賑わった。